

目が製作できる様な原型を作図したいと考えてこの実験に着手した。

2. 衣服は肩で着るといわれるほど衣服の適合性は肩部形態と密接な関係をもっている。本研究は、まず従来使われているS式原型を展開して型紙を作り、それを綿布で縫合仮縫した結果を基として新しい原型を想定した。そして製図時における肩部角度と縫合仮縫補正した結果の肩部角度との比較を行なった。

a) 被験者：短大生 180 名。S式原型を展開して型紙を作図した。これを綿布で縫合仮縫補正をしてNP, SPの移動状況を調べた。

b) 被験者：93名。aの結果からNPを移動させSPを計測によって決め、展開の手間を省いて新しい原型を作図することができた。それを縫合仮縫補正した。前後肩部角度を計りこれと胸囲、体型別、肩の厚み等との関係を考察したが、いずれも無相関であった。

c) 被験者 163 名をbの方法で実験した。製図時における角度と補正後の角度とを照合した結果許容角度を4度としたとき70%が変動なしであった。

3. S式原型によって展開するよりも計測によって作図の方がより簡単であり、補正の変動も少なく、体表の凹凸もよりよく含む結果となった。

C—56 原型の改良について（第1報）

中村学園短大 ○石橋 葉子
福岡女大家政 木村 和子

1. 被服構成（洋裁）の単位数の少ない学校ではいか
にして時間内で処理するかを工夫することが問題とされ
ている。できれば仮縫の時間を省いて、しかも簡単な細